

## 7 西之島の火山活動

海洋調査課 海洋防災調査室 小野智三・濱崎翔五  
技術・国際課 森下泰成  
東京工業大学 野上健治

### 1. はじめに

2013年11月20日に活動開始が確認された西之島での噴火活動は、約2年が経過した2015年11月17日以後は活発な火山活動は確認できなくなっている。

平成26年度年研究成果発表会で2015年1月までの西之島火山の噴火活動について報告した。今回は2015年2月から現在までの西之島火山の噴火活動を報告する。

### 2. 噴火活動の推移

2015年2月以降の西之島火山の噴火活動は、西之島の中央部にある第7火口で休むことなくストロンボリ式噴火を継続し火砕丘を成長させていた。

測量船「昭洋」で西之島近傍の調査を実施していた2015年7月6日の早朝、連続して噴火を継続していた第7火口からの噴火が突然停止した。その4時間20分後の10:50頃、第7火口の北側山腹から側噴火が始まった。側噴火開始後も第7火口からの噴火は停止していたが、翌朝、第7火口から噴火が再開した。2015年7月下旬には、第7火口は南北に並んだ2つの火口を有し、側噴火の火口はすでに半ば埋没していることが解った。その後、第7火口の2つの火口からの噴火が確認できたが、噴火間隔が長くなり、間欠的な噴火になった。2015年11月17日には、激しいブルカノ式噴火が第7火口で確認された。しかし、この噴火以後、噴火活動は確認していな

い。2015年12月には、火山活動に伴う顕著な高温域は認められなくなった。

### 3. 溶岩流による地形変化

2015年2月～7月の間は火砕丘北側の溶岩流出口から西之島の東～南東方向へ溶岩流が流下し面積が拡大した。しかし、2015年8月は溶岩流の流下による面積の拡大は鈍化し、2015年9月は溶岩流による顕著な拡大はなくなった。さらに2015年11月以降は溶岩流による拡大は認められず現在に至っている。

### 4. まとめ

2013年11月20日の活動開始以来約2年が経過した。2年の間休むことなく噴火を継続してきた西之島の火山活動もようやく衰えてきた。一連の調査で得られた調査結果は、今後の火山調査で活用されることがあれば幸いである。

### 5. 参考文献

- 海上保安庁海洋情報部, 海域火山データベース西之島,  
小野智三ほか(2015)「2013-2015年西之島火山の活動」, 日本火山学会秋季大会  
森下泰成ほか(2015)「西之島火山の調査航海結果(速報)」, 日本火山学会秋季大会  
伊藤弘志ほか(2012), 『日本周辺海域火山通覧(第4版)』, 海洋情報部研究報告, 48, 60-61.